

活動報告

下野市青少年育成市民会議会長 大塩宗里

青少年育成市民会議が関わる活動の一つ、過日行われました学校音楽祭及びこどもまんなかプロジェクト会議について、概略をご報告します。

■下野市立学校音楽祭 新たな門出の報告

現在、社会教育で重要視され実践が期待されていることに、地域、学校、社会の連携・協働が挙げられますが、いざ各論となると、実践上問題に突き当たりやすいものです。下野市立学校音楽祭はこの点において、事業スタート時から他の青少年育成市町村民会議に誇る運営スタイルをとっていると自負しております。音楽祭実行委員会は、各小中学校のPTA役員及びそのOB役員、そして市民会議理事の方々を中心となります。そして校長会代表との連携をとり、発表にあたる子どもたちが指導教諭と十分に活動可能な場を設けました。

今年度は会場確保のため、市、市教育委員会、音楽祭実行委員会との共催の形をとることになりました。市民会議は支援団体として運営費補助及び実行委員として参加する形となります。

令和5年9月23日、自治医科大学地域医療情報研修センターをお借りすることができ、過去の状況からは一変した雰囲気の中で音楽を楽しむことができました。これはひとえに、市事務局と実行委員会の連携協働及び自治医科大学の大きな協力体制のおかげであります。はたせるかな、当日は市長、教育長をはじめ多くのご来賓の出席をいただき盛大な音楽祭となり、市内全小・中・義務教育学校、石橋高等学校、自治医科大学などの合唱・合奏が繰り広げられ、全席満席の状態での音楽鑑賞となりました。

地域医療の中心である自治医科大学と市の音楽文化、そして市民生活とが絆を結んだ瞬間でした。下野市の学校音楽祭が、目的達成に向けて、ますます発展しますようお祈りします。

■こどもまんなかの社会実現に向かって

令和5年4月、こども家庭庁が発足し、同時に「こども基本法」が施行されました。本市においては令和3年度から市民会議の中に「こどもまんなかプロジェクト」が設立され、着実に活動の歩みを進めてまいりました。

令和5年11月15日にこどもまんなかプロジェクト会議が開かれ、下野市に在住する多くの子どもたちの顔が見える活動を理念に、各種団体、組織と話し合いながら、隠れている問題点や解決に向かう支援の方向性を探ることにしました。ありがたいことに、今回から国分寺特別支援学校の保護者2名と若者サポート・ハチドリの会2名が委員として登録されました。

保護者の方からは、「クラブ活動に所属していない多くの子どもたちが、発表の場が少なかったり、一歩踏み出せなかったりする状況にある。今後の我が子の生末が心配である」というご意見がありました。

若者支援団体からは、「悩みを抱えた若者に、支援をする団体があることを知ってもらうため、PRの方法とそのための支援が欲しい」というご意見がありました。

発表活動の場の開拓が望まれています。それにより、子どもたちのコミュニケーション能力の育成に寄与できるはず。学校音楽祭、なんでも発表会などもその一つになり得るのです。わずかではありますが、プロジェクトチームの予算内から補助することはできます。団体や組織同士の連携による知恵の出しあいも、良い方法となり得るはずです。

少しずつの前進にはなりますが、リーダーたちの意見交換は極めて貴重であることを認識しました。



下野市児童表彰条例(子ほめ条例)の記念品を贈呈

市内の小・義務教育学校6年生と国分寺特別支援学校6年生を対象に、一人ひとりの良さを見つけて表彰し、自信と誇りをもたせ、健全な心身の発達を促しています。当会議から、表彰式にあわせて記念品を贈呈しました。児童の皆さんにご活用いただければ幸いです。

